

文部科学省  
「地域社会に根ざした高等学校の  
学校間連携・協働ネットワーク構築事業  
(COREハイスクール・ネットワーク構想)」  
成果報告書

宮城県教育委員会

## 1. 事業概要

### 1.1. 本事業に取り組む課題と目的

#### (1) 本事業に取り組む背景（本県の現状と課題）

本県は仙台圏への人口の一極集中が顕著であり、仙台圏以外のいわゆる郡部の人口流出に歯止めがかからず、これはネットワーク構成校の受信校として選定した高等学校の所在地の自治体も同様である。（表1）本教育委員会においても、15歳人口の減少を見据えて、高等学校の統廃合や学級減を進めている。しかし、郡部の高等学校では定員充足率が低い。（表2）今後、さらに統廃合が進み、地域から高等学校が無くなることは、地域の教育環境を失うに止まらず、地域の経済や人材確保に大きな影響を及ぼし、人口流出に一層の拍車をかけるものと考えられる。

ネットワーク構成校名	市町名	平成22年	平成27年	令和2年
宮城野高校（コア校）	仙台市	1,045,986	1,082,156	1,096,704
田尻さくら高校（コア校）	大崎市	135,147	133,391	127,330
柴田農林高校川崎校	川崎町	9,978	9,167	8,345
岩ヶ崎高校	栗原市	74,932	69,906	64,637
中新田高校	加美町	25,527	23,743	21,943

表1 ネットワーク構成校の所在地自治体の人口（人）（出典：総務省）

ネットワーク構成校名	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	定員	充足率	定員	充足率	定員	充足率
宮城野高校（コア校）	280	100.0	280	97.9	280	100.0
田尻さくら高校（コア校）	120	45.0	120	49.2	120	45.0
柴田農林高校川崎校	40	55.0	40	65.0	40	47.5
岩ヶ崎高校	120	55.8	120	35.8	80	37.5
中新田高校	120	76.7	120	56.7	120	77.5

表2 ネットワーク構成校の定員充足率 定員（人） 充足率（%）

第2期宮城県教育振興基本計画（計画期間：平成29年度から令和8年度まで）においては、「郷土を愛する心と社会に貢献する力の育成」を教育施策の基本方向の1つに掲げ、「伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養い、国際的視野を持ち世界に通用する人づくり」や「地域振興・活性化を目指す地方創生及び我が国や郷土の発展に向けて、宮城の将来を担う人づくり」を進めている。地域社会に根ざす高等学校においては、生活圏のフィールドとする地域探究学習を充実させ、探究の手法を生徒に身に付けさせるとともに、地域との関わりを深めることで地域創生に資する人材の育成が求められている。

#### (2) 本事業に取り組む目的

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を融合させ、経済的な活性化と社会的な課題解決を目指す新たな社会 Society5.0 の実現とその社会を支える人材育成のために、公的サービスの提供のための手段としてICTのもつ機能を最大限活用し、都市部への人的資源の一極集中の是正と地方創生という大きな課題に対して

教育分野のアプローチ・研究と位置付け、本県では仙台圏と郡部の教育機会の格差の解消を目指し、遠隔授業の在り方についての調査研究と郡部の高等学校における地域探究を柱とするカリキュラムについての調査研究をし、地域に貢献する人材を育成する。県内の地域間格差を解消する手立てとしてICTの活用を有効な手段と捉え、仙台圏の学校と郡部の学校、郡部の学校間での教育課程の共通化や学校間交流を図り、宮城県内のどこにおいても生徒の多様なニーズに応える教育体制を模索したい。

## 1.2. 本事業を通して明らかにしたい事項（調査研究テーマ）

1.1. 本事業に取り組む目的で述べたことを具現化するために、下記のことについて調査研究を行う。

### (1) 遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組

#### イ 調査研究テーマ

遠隔授業における「協働的な学び」の実践の在り方

#### ロ 検証内容

遠隔教育において「主体的、対話的で深い学び」を実現し、生徒の資質・能力の育成を図るため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に資する実践の在り方を検証する。

### (2) コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組

#### イ 調査研究テーマ

学校コンソーシアムと協働した地域探究活動

#### ロ 検証内容

高等学校が地域創生の核となるための、学校コンソーシアムと学校の協働を支援する管理機関の関わり方を検証する。

## 1.3. ロードマップ

### (1) 3年間の調査研究の概要

令和3年度から3年間、以下の実証研究を進めていきたい。

イ 配信側の高校の教育課程において特長のある教科・科目（芸術や学校設定科目）を受信側の教育課程にも設定し、仙台圏以外の学校でも多様な教科・科目の選択を可能にするとともに、配信側と受信側の教員の連携により、生徒の学習進度に応じた習熟度別授業を展開する。

ロ ネットワーク構成校教員と指導主事による連絡協議会を定期的を開催し、学校間連携を円滑に行う仕組みを構築する。

ハ 教育委員会、大学、市町村、商工会等からなるコンソーシアムを構築し、構成機関が生徒の地域探究の学習活動や成果の普及に関わる仕組みを構築する。

ニ 受信校の生徒が探究活動を通して地域の課題とその解決策の提案に取り組む中で、次のような資質・能力を育成する。

- ・ 地域の特長と課題を見いだし、特長を生かした課題解決を探究することで育成される「分析する力」と「構想する力」
- ・ 他校との交流や情報共有、成果発表に取り組むことで育成される自分たちの地域を「発信する力」と「客観化する力」
- ・ 地域の探究も含め、地域と関わる中で積極的に「社会参画する力」

ホ 3年間の実施計画

令和3年度	第1回 MDCC連絡調整会議 第1回 受信校コンソーシアム会議 ICT機器の選定 令和4年度入学生の教育課程の決定（各構成校） 遠隔授業を行う科目の決定 遠隔システムの設置（※適宜 CIO 指導主事訪問） 遠隔授業教員研修会 遠隔システムの試行 教育課程外でのネットワーク活用 研究成果報告・発表 本事業に係る成果普及（受信校） 第2回 受信校コンソーシアム会議 第2回 MDCC連絡調整会議
令和4年度	遠隔授業の本格実施（5科目） 第1回 MDCC連絡調整会議 第1回 受信校コンソーシアム会議 遠隔授業教員研修会（※適宜 指導主事訪問） 第2回 MDCC連絡調整会議 研究成果報告・発表 本事業に係る成果発信 第2回 受信校コンソーシアム会議 第3回 MDCC連絡調整会議
令和5年度	遠隔授業の本格実施（7科目） 第1回 MDCC連絡調整会議 第1回 受信校コンソーシアム会議 遠隔授業教員研修会（※適宜 指導主事訪問） 第2回 MDCC連絡調整会議 研究成果報告・発表 本事業に係る成果発信 第2回 受信校コンソーシアム会議 第3回 MDCC連絡調整会議

へ 本事業完了後の計画

(イ) 遠隔授業に関する計画

本事業で得た知見等を生かし、本県では「教育DX推進プロジェクト事業（令和

5年度から令和7年度)」(図1)を展開する。

教育DX推進プロジェクト事業は、「ICT機器を活用して複数の学校間で授業を共有・補完し、生徒の多様な進路希望の実現に向け、個のニーズに対応する授業を提供するとともに、日本語に通じない生徒や不登校生徒等多様な事情を抱える生徒の学びを保障する。また、クラス数及び教員数が限られる県立高等学校間でネットワークを構築し、学校の枠を超えた協働的な学びを実現する」及び「併せて、学習支援ツール等を活用して効果的かつ効率的な生徒の個別最適な学びの推進と学力の向上を図るとともに、教員業務の効率化及び働き方改革を推進する」を趣旨とし、共通教科「情報Ⅰ」や「日本語」、「英語ベーシック」などの教科・科目を遠隔授業により配信する。

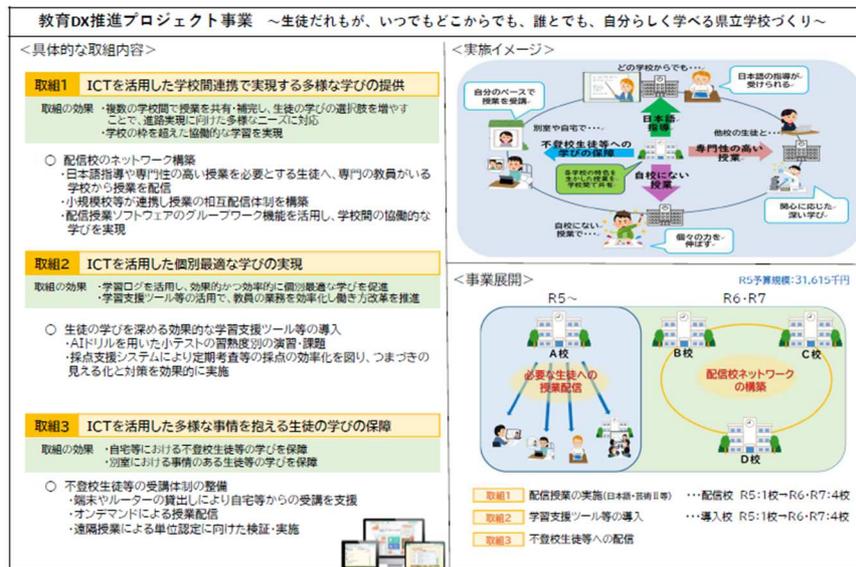


図1 教育DX推進プロジェクト事業 全体構成図

(ロ) コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組

本事業で得た学校コンソーシアムの在り方や効果的かつ継続的に学校コンソーシアムを運営するための知見等を生かし、本県では「地域進学重点校改革推進事業(令和5年度から令和7年度)」(図2)を展開する。

地域進学重点校改革推進事業は、「地域社会が抱える課題発見・解決学習等を通して、学力向上と進路実績の向上を図る事業である。これらを達成するため、人口減少社会における宮城県内の諸課題に対して地域進学重点校10校が連携して政策や解決方策の提案等に取り組む」、「10校のうちの南部・北部・東部の各地区の1校は、改革推進校としてコンソーシアムを構築し、まちづくり等への社会参画や、地域社会と連携して課題解決型の探究活動に積極的に取り組み、生徒が生涯を通して社会課題に向かうことができる資質・能力の育成を図る。また、改革推進校3校には、地域コーディネーターを配置し、地域社会と連携した総合的な探究の時間の取組を深めるための学校設定科目の創出を視野に入れた教育課程編成の実践研究を行う」及び「改革推進校3校以外の地域進学重点校7校はアソシエイト校として、各地区のコンソーシアム構成員となる。アソシエイト校は、コンソーシアムの取組や資源を自校の総合的な探究の時間や各科目の授業改善等に活用するとともに、改革推進校における発表会や教員研修等の機会を利用して自校の教員の指導

力向上を図る」を目的とし、県内を3地区に分割し、各地区に改革推進校3校を指定する。改革推進校では、地区の行政機関や大学等とコンソーシアムを構築する。構築したコンソーシアムと協働して、総合的な探究の時間を中心とした地域探究活動や生徒による政策提言などの教育活動を通して、生徒の資質・能力の育成を図る。

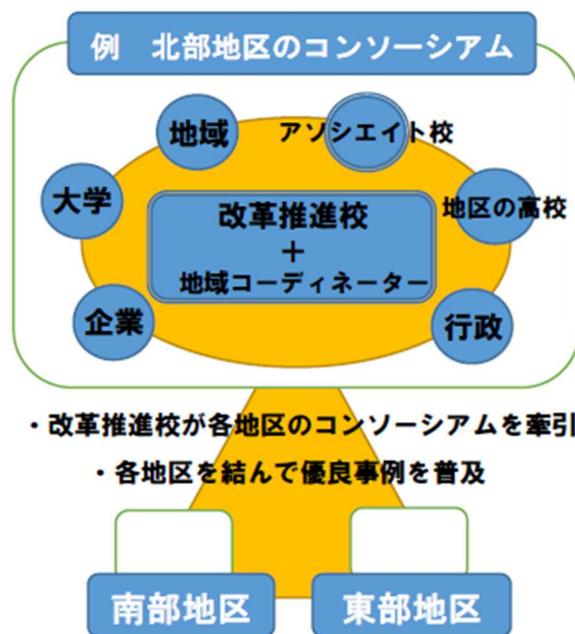


図2 地域進学重点校改革推進事業 コンソーシアム構成図

## 2. 遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組

### 2.1. 調査計画

令和4年度の調査研究事業（遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組）の実施計画については、下記のとおりである。

令和4年度調査研究事業の実施計画

年 月	実施内容
4年4月	<u>遠隔授業研修会・C I O学校訪問</u> <u>遠隔授業の本格実施開始</u>
5月	<u>第1回MDCC会議</u> 第1回学校コンソーシアム会議（各受信校）
6月	第1回みやぎ探究メソッド研修会（探究活動研修会）
8月	<u>遠隔授業研修会・受信校活動報告会兼生徒交流会</u>
10月	第2回みやぎ探究メソッド研修会（探究活動研修会）
11月	<u>遠隔授業研修会兼遠隔授業成果発表（配信校）</u> <u>第2回MDCC会議</u>
1月	総合的な探究の時間の成果発表会（受信校） 高校生フォーラム発表（受信校の探究活動を発信） 第2回学校コンソーシアム会議（各受信校）
2月	<u>遠隔授業成果発信（配信校・受信校）</u> 第3回みやぎ探究メソッド研修会（探究活動研修会） 第3回MDCC会議

※遠隔授業に関わる項目については、下線を引いている。

### 2.2. 実施体制

#### (1) ネットワーク構成校

本県は配信校2校、受信校が3校でネットワークを構成している。

#### イ 宮城野高等学校

本高校は普通科、総合学科、美術科の3学科で構成される単位制の高校であった。令和4年度入学生からの新学習指導要領の完全実施に合わせて、普通科と美術科の2学科に改編され、単位制高校として学習意欲の高い生徒のニーズに応じた科目を多く設定している。本高校からの授業配信により、郡部の小規模校において学習内容の理解の早い生徒と遅い生徒のニーズに応える習熟度別授業や多様な教科・科目の展開が可能となることから配信校（コア校）として構成校に選定した。

#### ロ 田尻さくら高等学校

本高校は定時制の普通科、単位制の高校であり、様々な学習歴、多様な進路希望をもった生徒の自己実現を可能にする学校である。普通科ではあるが、福祉や商業などの教科や韓国語や中国語などの学校設定科目も履修できるため、多様な生徒の興味

関心に応じた授業が提供できる。本高校からの授業配信により、郡部の小規模校において教員数の関係で設定しにくい専門科目や多種多様な学校設定教科・科目等の選択が可能になることから配信校（コア校）として構成校に選定した。

#### ハ 岩ヶ崎高等学校

本高校は「総合的な探究の時間」において栗原市役所栗駒総合支所や鶯沢栗駒商工会と連携した学習を行っており、本高等学校を「栗原市役所岩高支所」として、地域の抱える課題に関する探究活動を実践してきた。これまで地域の大学進学を目指す生徒を集め、大学進学希望者のニーズに応える教育活動が実践されてきたが、近年、地域の生徒数の減少が著しい。今後も地域社会に根ざした学校として、大学進学希望者をはじめとする生徒の多様なニーズに応える教育活動を展開するために受信校として構成校に選定した。

#### ニ 中新田高等学校

本高校は「総合的な学習の時間」に加美町役場や加美町商工会と連携した地域学習を行っており、新教育課程の「総合的な探究の時間」となってからは、加美町の課題とその解決に向けた探究学習を実践しており、地域との連携が進んでいる。加美町が本高校の全国募集の実施を県教育委員会に働きかけるなど、町からの本高校への期待は大きい。大学進学を希望する生徒がいる一方、地元企業への就職を希望する生徒もおり、生徒の多様なニーズを実現するために受信校として構成校に選定した。

#### ホ 柴田農林高等学校川崎校

本高校は柴田農林高校の分校であり、普通科で農業科目を設置する全国でも珍しい高校である。1学年2クラス編成であったが、平成20年から1学年1クラスとなった。川崎町唯一の高校として、地域社会に根ざした学校として歩んでおり、地域からも期待され、保護者や地域へのアンケートでは進学希望にも就職希望に対応した学校を望む声が多く、多様な授業ニーズを潜在的にもつ高校であることから受信校として構成校に選定した。

### (2) みやぎDUAL-COREハイスクールネットワークコンソーシアム

本県では事業全体を総括する組織として、みやぎDUAL-COREハイスクールネットワークコンソーシアム（以下、MDCCという）を組織した。高等教育機関、行政機関、遠隔授業配信校、受信校が構成する探究の学びのための学校コンソーシアムを構成団体としており、学校コンソーシアムに対して親コンソーシアムの役割ももつ。MDCCを組織するために制定した規約を40ページから41ページに掲載した。

規約では「みやぎハイスクールネットワーク構築事業を連携・協働して実施するにあたり、連絡・調整するための会議を開催する。」としており、令和3年度は2回の連絡調整会議を開催した。

第1回の会議は令和3年12月27日に開催し、令和4年度からの遠隔授業実施に向け、担当者間の連絡体制や通信環境が悪い場合の対応、ペーパーテストの実施に係る留意点等について話し合いが行われた。本県では配信校が2校、受信校が3校であるため、個別に連絡調整するよりも、各学校の抱える課題やその対応策について構成校全体で共有でき、事業の具体を明確にすることができた。

第2回の会議は令和4年2月16日に開催し、令和3年度の事業報告が行われ、各受信校による探究活動の報告が行われた。配信校が受信校の探究活動を、また、受信校が

他の受信校の探究活動を知る機会となり、学校間連携を進める上で有意義であった。東北学院大学 教授 稲垣忠 先生からは、生徒1人1台のICT端末を利用した授業展開の提案や令和4年度からの観点別学習状況の評価に係る助言をいただき、宮城学院女子大学 教授 宮原育子 先生からは、地域と協働した教育活動を長期的に継続していく際の留意事項や学校間連携に係る助言をいただいた。お二人の先生からの助言は本事業の2つの柱である遠隔教育と地域との協働・連携の核となる部分であり、令和4年度以降本事業を進めるにあたり大変に有益な内容であった。

令和4年度においても、2.3. 取組概要で示す通り、全3回の会議を実施した。第3回の会議からは、宮城学院女子大学 教授 宮原育子 先生に代り、宮城学院女子大学 准教授 舩井晴道 先生に参加頂き、指導・助言を頂いている。東北学院大学 教授 稲垣忠 先生からは、引き続き生徒1人1台のICT端末を利用した授業展開や授業評価に係る助言を、宮城学院女子大学 教授 宮原育子 先生からは、持続可能な学校コンソーシアムの運営の在り方や地域の協働する際の留意点について助言をいただいた。宮城学院女子大学 准教授 舩井晴道 先生からは、探究活動を通して育成された資質・能力を活用することでの学びの広がりについて助言をいただいた。

## 2.3. 取組概要

### (1) 実施日程

月	実施内容
令和4年4月	各学校での遠隔授業受信開始 柴田農林高校川崎校 ・岩沼高等学園川崎キャンパス連携校内行事開始 管理機関 ・遠隔授業研修会①
5月	柴田農林高校川崎校 ・岩沼高等学園川崎キャンパス連携防災訓練 管理機関 ・第1回みやぎDUAL-COREハイスクールネットワークコンソーシアム連絡・調整会議 ・指導主事による宮城野高校(地学基礎)、柴田農林高校川崎校(科学と人間生活)への遠隔授業視察(CIO訪問の代替)
6月	中新田高校 ・第1回学校コンソーシアム会議 柴田農林高校川崎校 ・第1回学校コンソーシアム会議 ・川崎町学務課連携活動 ・川崎町連携全校ボランティア活動 ・川崎町地域おこし協力隊連携保健体育ダンス指導開始 管理機関 ・指導主事及びコンソーシアム構成員である大学教員による中新田高校(数学B)への遠隔授業視察 ・第1回探究活動研修会

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校視察 北海道立虻田高等学校、北海道高等学校遠隔授業配信センター (北海道有朋高等学校内)、北海道立長万部高等学校</li> </ul>
7月	<p>岩ヶ崎高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回学校コンソーシアム会議</li> <li>・学校コンソーシアム委員よる3年生「総合的な探究の時間」最終発表会における指導・助言 2回実施</li> </ul> <p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・釜房みどりの園1学年ボランティア活動</li> </ul> <p>管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業研修会②</li> </ul>
8月	<p>中新田高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回学校コンソーシアム会議(部会)</li> </ul> <p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎町総務課連携活動</li> <li>・川崎町生涯学習課連携活動</li> <li>・川崎町社会福祉協議会連携活動</li> <li>・NPO 学校サポートネットワーク連携活動</li> </ul>
9月	<p>岩ヶ崎高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究型学習に係る講演会(1年生対象)</li> </ul> <p>中新田高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進校視察(山形県立小国高校)</li> </ul> <p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生インタビュー動画発表会①(総合的な探究の時間)</li> <li>・川崎町協力2学年インターンシップ</li> </ul>
10月	<p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎町学務課連携活動</li> <li>・川崎町生涯学習課連携活動</li> <li>・川崎町地域おこし協力隊保健体育ダンス発表会</li> <li>・川崎町社会福祉協議会連携活動</li> <li>・NEXCO 東日本連携生徒会活動</li> </ul> <p>管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事及による宮城野高校(地学基礎)への遠隔授業視察</li> <li>・第2回探究活動研修会</li> </ul>
11月	<p>中新田高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回学校コンソーシアム会議</li> </ul> <p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎町福祉課及び社会福祉協議会連携活動</li> <li>・川崎町協力全校ボランティア活動</li> </ul> <p>管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事及びコンソーシアム構成員である大学教員による宮城野高校(数学B)への遠隔授業視察</li> <li>・遠隔授業研修会③兼遠隔教育成果発表</li> </ul>
12月	<p>岩ヶ崎高校</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究力養成講座（1、2年生対象）</li> <li>・<u>みやぎのこども未来博オンライン交流会参加</u></li> </ul> <p>中新田高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>みやぎのこども未来博オンライン交流会参加</u></li> </ul> <p>管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>みやぎのこども未来博オンライン交流会（受信校活動報告会兼生徒交流会）</u></li> </ul>
令和5年1月	<p>岩ヶ崎高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンソーシアム構成員である大学教員及びゼミ生1年生「総合的な探究の時間」における指導・助言</li> </ul> <p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カワサキクエスト（総合的な探究の時間）中間発表会②</li> <li>・第2回学校コンソーシアム会議</li> <li>・<u>みやぎのこども未来博オンライン発表会参加</u></li> <li>・川崎町社会福祉協議会連携活動</li> </ul> <p>管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>みやぎのこども未来博オンライン発表会（受信校活動報告会兼生徒交流会）</u></li> <li>・<u>第2回みやぎDUAL-COREハイスクールネットワークコンソーシアム連絡・調整会議</u></li> </ul>
2月	<p>岩ヶ崎高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回学校コンソーシアム会議</li> <li>・学校コンソーシアム委員より2年生「総合的な探究の時間」中間発表会における指導・助言 2回実施</li> <li>・コンソーシアム構成員である大学教員及びゼミ生2年生「総合的な探究の時間」における指導・助言</li> </ul> <p>中新田高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「加美町研究」（総合的な探究の時間）発表会</li> <li>・第3回学校コンソーシアム会議</li> <li>・<u>Kami Creative Academy&lt;DXコース&gt;成果発表 町内飲食店HP</u></li> <li>・<u>Kami Creative Academy&lt;クリエイティブコース&gt;成果発表</u> <u>「アレンジ校歌」ミュージックビデオ</u></li> </ul> <p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カワサキクエスト（総合的な探究の時間）成果発表会③</li> </ul> <p>管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回探究活動研修会</li> <li>・高校生フォーラム発表（受信校の探究活動成果発信）</li> </ul>
3月	<p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会連携活動</li> </ul> <p>管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔教育成果発信</li> <li>・<u>第3回みやぎDUAL-COREハイスクールネットワークコンソーシアム連絡・調整会議</u></li> </ul>

※遠隔授業システムを活用した教育課程外の取組については、アンダーラインを引いている。

### 2.3.1. 遠隔授業実施表

配信拠点	受信校	教科名	科目	開設学年	配信校生徒の有無	遠隔授業実施理由	試行・本格実施の別 (R3・R4・R5)	受信側の配置体制	遠隔授業実施回数/ 全授業回数
宮城野高校	岩ヶ崎高校	理科	地学基礎	2	無	専門性	R4：本格実施	教諭	62/64
宮城野高校	中新田高校	数学	数学B	2	無	習熟度	R4：本格実施	実習助手	49/51
田尻さくら高校	岩ヶ崎高校	芸術	美術Ⅱ	3	無	免許外	R4：本格実施	教諭	49/51
田尻さくら高校	中新田高校	理科	科学と人間生活	3	無	習熟度	R4：本格実施	実習助手	51/54
田尻さくら高校	柴田農林高校川崎校	理科	科学と人間生活	1	無	習熟度	R4：本格実施	教諭	51/55

### 2.4. 取組内容

#### (1) 令和3年度の取組内容

- イ 田尻さくら高校から柴田農林高校川崎校に遠隔授業の試行を実施。(図3)  
「科学と人間生活」



図3 田尻さくら高校から柴田農林高校川崎校に遠隔授業の試行

- ロ 田尻さくら高校から岩ヶ崎高校と中新田高校にデモ授業を遠隔で実施。  
「美術Ⅱ」（田尻さくら高校→岩ヶ崎高校）  
「科学と人間生活」（田尻さくら高校→中新田高校）  
※上記の2つの授業は令和3年度開講されていない科目のためデモ授業を遠隔で実施。

ハ 宮城野高校と中新田高校及び岩ヶ崎高校で接続テストを実施。

ニ 遠隔授業研修会を実施。

期日：令和4年1月31日（月）

内容：研修Ⅰ「遠隔授業とは」

講師：宮城県教育庁高校教育課 主幹 上園 知明

研修Ⅱ「ICTを活用した遠隔教育について」

講師：(株)テクノホライゾン 執行役員 天野 光善 氏

ホ 北海道教育委員会の遠隔授業のオンライン視察（令和4年1月26日）

- ・ 北海道遠隔授業配信センター（T-Base）からのオンライン配信による遠隔授業の見学（理科と英語の授業を視察）
- ・ 対面授業のタイミング、生徒とのコミュニケーション、考査等の取扱い、理科等の実験の取扱いについて意見交換

※ 遠隔授業の先進的な取組を見せていただき、実際に授業を配信している先生からICTの活用や遠隔授業のノウハウが聞けたため、多くの知見を得ることができた。本県ではICT機器の導入に時間がかかり、遠隔授業の取組が遅れてしまった。学校間の接続テストを実施したが、遠隔授業の試行とICTを活用した学校間交流が十分に行えなかった。令和4年3月16日に発生した福島県沖を震源とする地震により本県でも地震被害が発生し、ネットワーク構成校でPCモニターが破損した学校があり、3月中旬以降に実施検討していたオンライン交流等を中止した。そのため、令和4年度からの遠隔授業の本格実施に向けて、令和4年4月に入ってすぐ、学校が始業する前の春季休業中にICT機器の研修を含め学校間のオンライン接続等の実施を申し合わせた。

(2) 令和4年度の取組内容

イ 5科目において、遠隔授業を本格実施。(図4・5・6・7)



図4 科学と人間生活の配信の様子  
(配信校：田尻さくら高等学校)

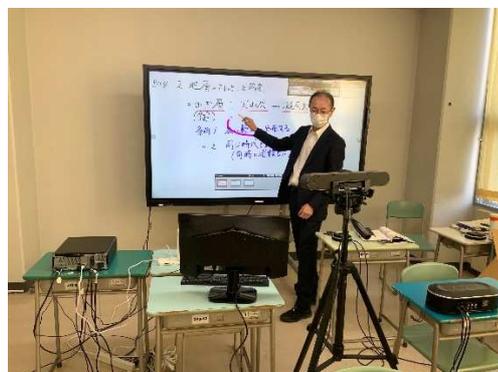


図5 地学基礎の配信の様子  
(配信校：宮城野高等学校)



図6 美術Ⅱの配信の様子  
(配信校：田尻さくら高等学校)



図7 数学Bの配信の様子  
(配信校：宮城野高等学校)

ロ 遠隔授業研修会①を実施。(図8)

期日：令和4年4月4日(月)

内容：研修1「遠隔授業とは」

講師：宮城県教育庁高校教育課 主幹 上園 知明

研修2「遠隔教育と著作権」

講師：宮城県教育庁高校教育課 主幹 上園 知明

研修3「ICTを活用した遠隔教育について」

講師：テクノホライズン株式会社 エルモカンパニー

石田 淳子 氏



図8 遠隔授業研修会①の様子(会場校：岩ヶ崎高等学校)

- ハ 遠隔授業研修会②を実施。  
期日：令和4年7月29日（金）  
内容：研修1「新時代に対応した高等学校改革の推進について」  
研修2「遠隔教育について」  
講師：宮城県教育庁高校教育課 主幹 上園 知明
- ニ 遠隔授業研修会③兼遠隔教育成果発表を実施。  
期日：令和4年11月16日（水）  
内容：研修1兼遠隔教育成果発表 「遠隔授業参観」  
授業者：宮城野高等学校 教諭 渡邊 武 氏  
※数学Bの授業を参観  
研修2「話題提供 単元別テストによる生徒の見取りについて」  
提供者：田尻さくら高等学校 担当者  
柴田農林高等学校川崎校 担当者  
研修3「協議 遠隔授業を実践する上での課題について」
- ホ 北海道教育委員会の遠隔教育システムに係る学校視察を実施。  
期日：令和4年6月21日（火） 北海道虻田高等学校視察  
22日（水） 北海道高等学校遠隔授業配信センター視察  
北海道教育委員会意見交換  
23日（木） 北海道長万部高等学校視察  
内容：（イ）道内における遠隔教育の取組について  
（ロ）遠隔操作システムの活用とその実践について  
（ハ）視察校における授業参観  
（ニ）北海道高等学校遠隔授業配信センターの取組とその実践について  
（ホ）単位制課程による時間割の作成、登下校完全フレックス制等について  
（ヘ）その他  
訪問者：宮城県教育庁高校教育課 主幹 上園 知明  
宮城県教育庁教育企画室 企画員 熊谷 恭  
宮城県教育庁教育企画室 主事 酒井 真由香  
公立高等学校教員5名（配信校2名、受信校3名）
- へ 受信校活動報告会兼生徒交流会を実施。  
期日：令和4年12月17日（土）  
内容：みやぎのこども未来博オンライン交流会及びオンライン発表会にて、本事業の活動について報告し、また生徒同士で探究活動の内容等について交流。
- ト 遠隔教育成果発信として特設サイトの作成。（図9）  
内容：遠隔授業の事業成果及び課題について、特設サイトを作成し、掲載。  
URL：<https://sites.google.com/gs.myswan.ed.jp/dual-core>



図9 遠隔教育成果発信特設サイト

## 2.5. 考察

遠隔授業研修会を全3回実施し、遠隔授業を円滑に進めるための教員の資質能力向上を図った。特に第3回で実施した話題提供及び協議では、約半年間の実践を踏まえた上での課題の洗い出しと有効な実践事例を共有することができた。

以下、遠隔授業研修会等で共有された遠隔授業実施に係る主な成果及び課題について示す。(成果：○ 課題：■)

### 【授業・定期考査の実施形態に係ること】

- 電子黒板と書画カメラによる映像を常時適切に組み合わせたことで、対面での授業に比べて、ペアワークやグループワークを多く取り入れることができた。
- 定期考査の実施から単元テストに評価方法の一部を切り替えたことで、単元ごとの形成的評価を丁寧に実施することができた。
- 機材の調整に時間がとられ、授業中に、こまめな振り返りのための時間を確保することが十分にできなかつた。この解消のために、今後 Google Forms の活用などを検討する必要がある。
- 専門性が高い表現活動や応用的な内容は美術室の環境が配信校と受信校で異なるため、生徒の表現したいことに合わせて材料や用具を即座に提示することができなかつた。
- 配信校でも同一の教科・科目の授業を実施している場合、定期考査の実施日や返却日を配信校と受信校との間で合わせる必要があり、その日程調整が困難であった。

### 【ICT及びクラウドサービスの活用に係ること】

- 記入したプリントの写真やデータを Google Classroom を用いて提出させたことで、対面での授業と同様に成果物を評価することができた。また、評価材料となる課題がデジタルデータで保存されるため、生徒が提出した後、評価コメントを返却した後など、どのタイミングでも閲覧することができた。
- 授業内外では、授業者から生徒への課題の指示、生徒から授業者へ課題を提出などで Google Classroom を活用し、個別への対応を図ることができた。
- 美術Iの授業において、iPad のアプリを活用したアニメーション制作などデジタル

メディアを利用した題材を設定することで、配信校と受信校側の成果物のやりとりはスムーズに行えた。評価材料としても有効だった。アニメーション制作の題材は、生徒の興味・関心も高く、授業の振り返りでは充実感の高い感想を得ることができた。

- Google Workspace のスライドで生徒の学習活動を記録することで、評価や生徒の学習の振り返り等に活用することができた。
- 学校運営支援統合システム内の共有機能を活用したことで、定期考査の答案採点に係る配信校と受信校間のやり取りをセキュアな環境下で行い、郵送等によるタイムラグを少なくすることができた。
- 生徒の学習状況をより適切に見取るために、デジタルポートフォリオの導入等を検討する必要があること。特に「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」の見取りに関しては、さらに検討が必要である。

#### 【遠隔授業のシステムに係ること】

- 遠隔授業システムでの可動式カメラに加え、教室後方から電子黒板や教室内を映すカメラ (iPad) を用意したことで、不具合時だけでなく、可動式カメラとは違った視点で生徒の様子が分かることが有効であった。
- 遠隔授業を実施する上で、通信状況の向上やよりコンパクトな遠隔教育システム等の検討を進める必要がある。

#### 【受信側の配置体制に係ること】

- 配信校の授業者は、生徒とのラポートが取りにくいいため、受信校で授業に立ち合う者が、代わりに生徒の実態を細かく把握し授業者に伝えるなどの役割は大きい。このことを共有したことで、遠隔授業を円滑に進めることができた。(図10)
- 理科の実験準備や美術の授業準備など教科による特性がある場合は、受信校で授業に立ち合う者が当該教科担当ではないとき、受信校内での協力体制をより明確にする必要がある。
- 受信校で授業に立ち合う者が出張等で不在の場合、遠隔授業の実施状況について記録を残し、受信教科を専門としない、もしくは普段授業に立ち合っていない者でも、対応できる方法を検討する。

科学と人間生活オンライン授業実施結果				監督の先生は記入し吾妻までお願いします。	
時数	日付	校時	内容	備考 (問題などあったら随時記載)	監督
1	4月22日	2	オリエンテーション	石場先生来校、対面授業	
2	4月22日	3		対面授業	
3	5月6日	2		初めてのオンライン授業。2校時目、開始20分程度で回線切断。復旧作業に3校時まで使ったものの改善せず。生徒は用意された課題に取り組んだ。	山口
4	5月6日	3	課題		山口吾妻
5	5月20日	2	ヒトの視覚と光による影響	・テクノマインド、県教委岡田先生来校 ・通信環境は良好 ・板書を移し終わらず進みそうになったので、監督のほうから待ってもらおうようお願いした。 ・スライドショーが発表者ビューになっていて答え丸見えでした	吾妻
6	5月20日	3	同上	・通信環境は良好 ・回答の経過様子(生徒の手元)を授業者が確認できないので時間がずれるので、サポート教員が丁寧に見る必要がある。	松本
7	5月27日	2	同上	・一時音声が途切れておく必要あり(音声がかまのスピーカーにつながらない。電子黒板からの音声しか聞こえなかった。こちらのマイクを拾わなかった→USB外れていた。10:10復旧) ・発信側の電子黒板の画面のサイズと受信側の電子黒板の表示サイズがずれていたこと複数回あり。	上中屋敷
8	5月27日	3	同上	・小字ストをやる際に、生徒側の時計リミットもサポート教員が教える必要があると思った。 ・突然15分前に表示したワードのファイルが表示されるトラブルがあり、復旧に5分程度かかった。	工藤
9	6月3日	2	同上	・出欠をとるのに時間がかかった。1回記入したものが消えてなくなるトラブルが発生した。 →対策、受信校側が使い方を熟知しておく必要がある。	工藤

図10 遠隔授業に係る連絡票(柴田農林高等学校川崎校での実践)

## 2.5.1. 目標設定シートに対応した成果と課題

### (1) 免許外教科担任制度の活用件数

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
目標値		0	0	0
実績値	0	0	0	
構成校の数	3			

- 免許外教科担任制度の活用件数については、目標値及び実績値も0件である。令和5年度においては、情報Ⅰについて柴田農林高等学校川崎校に対して遠隔授業を実施することから、次年度も0件が見込まれる。

### (2) COREネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数

	2年度	3年度	4年度	5年度
実績	0	0	5	
見込み		0	5	9

- COREネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数については、目標値である5科目と同じ科目数での実施となった。具体的な科目は数学A、数学B、科学と人間生活、地学基礎、美術Ⅱであった。
- 実技科目である美術Ⅱについては、ICTを活用して生徒が作成した作品に対する指導や評価などを適切に実施することができた。令和5年度においても、美術Ⅰでの遠隔授業の実施が見込まれているため、本年度で得られた知見を基に、より精度の高い授業を展開したい。

### (3) 活動指標①：遠隔授業を実施する選択科目の翌年度履修希望者数

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
実績	0	7	30	
見込み		10	15	55
活動指標の考え方	遠隔授業が行われる前年度における履修希望者数の延べ数を、生徒のニーズに応える教科・科目の提供ができているかの指標とする。			

- 遠隔授業を実施する選択科目の翌年度履修希望者数については、目標値である15人よりも15人多い、30人となった。
- また、令和4年12月に実施したアンケート調査では、質問項目「興味・関心のある教科・科目を選択することができた。」に対して、89.6%の生徒が肯定的な回答をした。(図10)

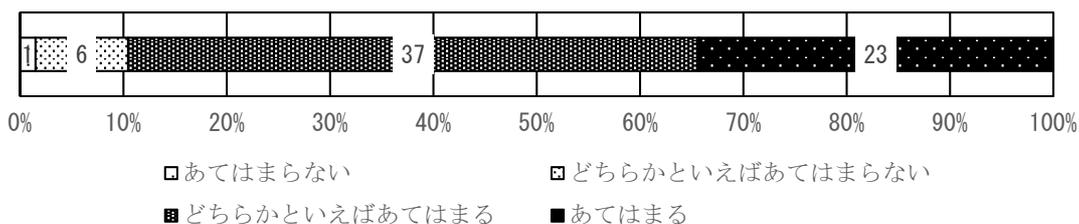


図10 「興味・関心のある教科・科目を選択することができた。」(n=67人)

### 3. コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組

#### 3.1. 調査計画

令和4年度の調査研究事業（コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組）の実施計画については、下記のとおりである。

令和4年度調査研究事業の実施計画

年 月	実施内容
4年4月	遠隔授業研修会・CIO学校訪問 遠隔授業の本格実施開始
5月	<u>第1回MDCC会議</u> <u>第1回学校コンソーシアム会議（各受信校）</u>
6月	<u>第1回みやぎ探究メソッド研修会（探究活動研修会）</u>
8月	遠隔授業研修会・受信校活動報告会兼生徒交流会
10月	<u>第2回みやぎ探究メソッド研修会（探究活動研修会）</u>
11月	遠隔授業研修会兼遠隔授業成果発表（配信校） <u>第2回MDCC会議</u>
1月	<u>総合的な探究の時間の成果発表会（受信校）</u> <u>高校生フォーラム発表（受信校の探究活動を発信）</u> <u>第2回学校コンソーシアム会議（各受信校）</u>
2月	遠隔授業成果発信（配信校・受信校） <u>第3回みやぎ探究メソッド研修会（探究活動研修会）</u> <u>第3回MDCC会議</u>

※コンソーシアム構築等に関わる項目については、下線を引いている。

#### 3.2. 実施体制

##### (1) 岩ヶ崎高等学校

###### イ 学校コンソーシアムの体制

令和3年度から、岩ヶ崎高等学校が立地する地域の各種団体の長からなる有識者8名（栗原市教育委員会、栗駒鶯沢商工会、岩ヶ崎高等学校PTA、栗原市栗駒総合支所、栗駒ロータリークラブ、地域おこし協力隊、民生委員、岩ヶ崎高等学校後援会）及び本校の校長、教頭、事務室長、総務部長、教務部長、進路指導部長、生徒指導保厚部長、総合的な探究の時間の担当で構成している。

###### ロ 学校コンソーシアム構築について

各学年の「総合的な探究の時間」の調べ学習や現地調査など、体験等が少ない生徒が自ら立てた問いについてどのように解決すればよいのか、その良きアドバイザーとして学校コンソーシアム委員をお願いして配置した。しかし、生徒の多様な問いや課題の全てについて適切に対応することは難しい。そこで学校コンソーシアム委員8名の人脈から約100名の各種専門家の方々を「人材バンク」として登録し、生徒の困り事やアドバイスしてほしいことに対応してきた。

##### (2) 中新田高等学校

###### イ 学校コンソーシアムの体制

令和3年度から、県の「学校運営協議会パイロット校事業」におけるパイロット校に指定され、令和3

年11月に学校運営協議会が発足し、地域と協働・連携した教育活動を行っている。本事業における学校コンソーシアムとは趣旨は異なるものであるが、実際に取り組んでいく内容や方向性は一致していることから、令和3年度から、学校運営協議会を本事業における学校コンソーシアムと兼ねることとした。なお、委員長は加美町教育委員会教育長、副会長は加美商工会会長に委嘱している。また、地域との連携をにらみ、加美町役場職員・地元企業・社会教育団体・本校同窓会・PTA役員に委員を委嘱し、連携を深めている。

#### ロ コンソーシアム構築について

中新田高等学校は、地元加美町との連携を深めていたが、令和4年度入学生から新たな類型制をとり、特に教養総合類型においては、学校設定教科「地域創造学」を設置することとしていた。(令和5年度2学年で実施)本教科においては、「地域産業」「地域スポーツ学」「地域防災学」の3つの科目を学び、地域に貢献できる人材育成を目指すこととしている。「地域創造学」の授業に、学校運営協議会の協力、特に学習内容・講師・活動場所等について協力依頼ができるよう、加美町役場職員・地元企業・社会教育団体等の方々に学校コンソーシアムの委員を委嘱している。多岐にわたる分野へ委員を委嘱しているため、令和4年度は20名の委員で構成されることとなった。学校コンソーシアムの設置目的・活動の方向性がぶれないよう、第1回学校運営協議会では、「地域社会の発展に貢献できる人材とはどんな人材か」といった内容の熟議を行い、意思統一を図った。専門分野に分かれての部会も開催するなど、各委員からの意見を吸い上げる努力をしている。

### (3) 柴田農林高等学校川崎校

#### イ 学校コンソーシアムの体制

令和3年度から、「地域と川崎校の連携『実務者連絡会』」兼コンソーシアム会議として、宮城県教育庁高校教育課教育指導班を加え新体制とした。連絡会の会員には、柴田郡川崎町役場(総務課、地域振興課、学務課、生涯学習課、社会福祉協議会)、川崎地域に居住する住民及び川崎地域で活動する団体等(川崎町地域おこし協力隊(SPRING)、特定非営利活動法人(NPO法人)川崎町の資源をいかす会、特定非営利活動法人(NPO法人)川崎町・学校サポートネットワーク、川崎校PTA)、柴田農林高等学校川崎校、宮城県立支援学校岩沼高等学園川崎キャンパスが参画している。

#### ロ コンソーシアム構築について

川崎町は、平成25年度に宮城県教育委員会から「志教育支援事業」の指定を受けたことにより、「川崎町志18年教育『学びの架け橋レインボープラン』」が立ち上がり、「かわさきこども園、富岡幼稚園、町内3小学校、2中学校、川崎校」が、幼・小・中・高18年間を見据え、異校種間の交流や地域交流事業など様々な活動を展開してきた。その後、柴田農林高等学校川崎校が中心となりレインボープランを下地として、令和2年度末に「地域と川崎校の連携『実務者連絡会』」を立ち上げ、川崎町関係各課、地元NPO法人等と連携を深めながら、地域の教育資源を活かした更なる教育活動を深めて来た。そして令和3年度からは、本事業の指定を受け、探究的な学びのための学校コンソーシアムとして「地域と川崎校の連携『実務者連絡会』」を拡大しての教育活動を展開している。

### (4) みやぎDUAL-COREハイスクールネットワークコンソーシアム

2.2 実施体制(2)で述べたとおり、事業全体を総括する組織として、MDCCを設置した。高等教育機関、行政機関、遠隔授業配信校、受信校が構成する探究の学びのための学校コンソーシアムを構成団体としており、学校コンソーシアムに対して親コンソーシアムの役割ももつ。(図11)

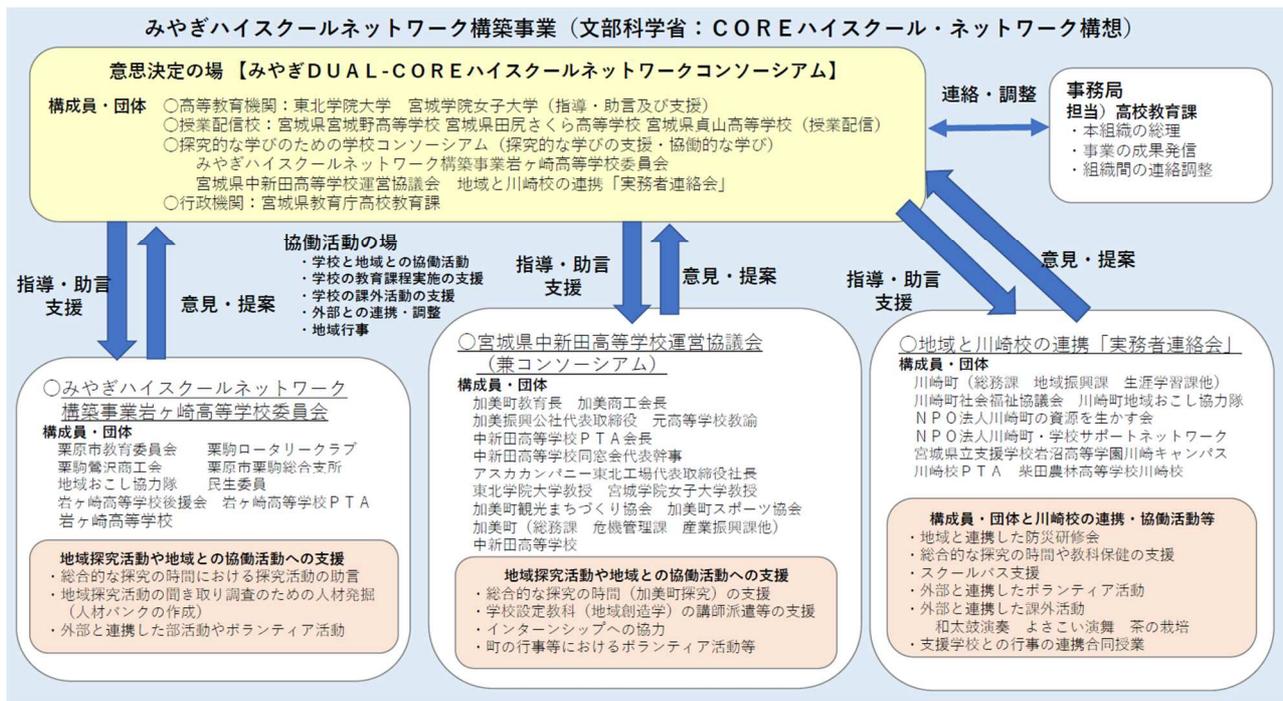


図 1 1 MDCC 全体構成

### 3. 3. 取組概要

#### (1) 学校間連携を行うための運営体制に関する取組

- イ 高等教育機関（大学）、配信校、受信校がつくる学校コンソーシアム、行政機関（教育庁高校教育課）を構成員とするコンソーシアム（みやぎDUAL-COREハイスクールネットワークコンソーシアム）を組織し、連絡・調整会議を3回開催し、学校間連携を図った。
- ロ 配信校、受信校の各校を担当する指導主事を配置し、学校コンソーシアムへの参加、学校間の連絡調整、教育委員会と学校間の情報共有を行った。
- ハ Google Classroom を活用して配信校と受信校間の連絡調整を行う体制を整え、各種資料の共有を図った。
- ニ 受信校と配信校で互いに教員を派遣し、生徒の実態把握や情報交換を行った。
- ホ みやぎのこども未来博にて、他校の生徒と探究活動及び研究活動の成果や課題についてオンラインで交流を図るとともに、各活動の成果を動画にて発表し、相互にコメントによるフィードバックを行った。本事業受信校の生徒間だけではなく、SSH 指定校や地域との協働による高等学校教育改革推進事業の指定を受けていた学校等に在籍する生徒とも交流することで、自身の探究活動を振り返り、さらに探究を高度化、自律化させる良い機会となった。
- ヘ 「私たちの志と地域貢献」をテーマに各学校で実施した地域探究活動や地域の連携した教育活動について動画で発表した。（令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から動画による発表とした。）

#### (2) 市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

##### イ 岩ヶ崎高校の取組

###### ○学校コンソーシアムの活動

- ・学校コンソーシアム会議 2回実施
- ・総合的な探究の時間の探究活動発表会における指導助言 4回実施
- ・探究型学習に係る講演会（1年生対象） 1回実施

※これから「総合的な探究の時間」で課題を立て研究を進める上でヒントになる講話をコンソーシアム構成員である大学教員からいただいた。

- ・探究力養成講座（1、2年生対象） 1回実施

※これから必要になる探究的な視点をコンソーシアム構成員である大学教員及びゼミ生を招聘し、講話と実践事例を紹介して頂きこれからの学習活動に役立てた。

## ロ 中新田高校の取組

### ○学校コンソーシアム活動

- ・学校コンソーシアム会議 4回実施（部会を含む）
- ・「地域に貢献する人材」についての共通理解
- ・全国募集実施に向けた準備・検討
- ・令和5年度実施の学校設定科目「地域創造学」の内容検討
- ・総合的な探究の時間（特に1学年「加美町研究」）の探究活動への協力
- ・学校評価アンケート結果に関わる検討
- ・Kami Creative Academy<DXコース>での町内飲食店HP作成。
- ・Kami Creative Academy<クリエイティブコース>での「アレンジ校歌」ミュージックビデオ作成。

## ハ 柴田農林高校川崎校の取組

### ○コンソーシアム活動

- ・学校コンソーシアム会議 2回実施
- ・探究活動発表会 3回実施
- ・総合的な探究の時間「カワサキクエスト」活動への指導助言
- ・各連携団体活動

## ニ 探究活動研修会の実施

### ○第1回 期日：令和4年6月29日（水）

内容：趣旨説明

講師：宮城県教育庁高校教育課 主任主査 岡田 康佑  
成果発表（地域との協働による高等学校教育改革推進事業）

講師：石巻西高等学校 教諭 今野 剛史 氏

講演「校内組織作り・探究実践の事例発表」

講師：岩手県立大船渡高等学校 教諭 小田島 新 氏  
情報提供（県内の探究活動に関する情報提供）

講師：宮城県教育庁生涯学習課 課長補佐 石川 寛之

### ○第2回 期日：令和4年10月25日（火）

内容：講演・ワークショップ「『総合的な探究の時間』における評価の一事例」

講師：大阪大学 准教授 佐藤 浩章 氏

### ○第3回 期日：令和5年2月2日（木）

内容：事例発表

講師：宮城野高等学校 教諭 若生 啓太 氏

一迫商業高等学校 教諭 牛袋 和義 氏

古川黎明高等学校 教諭 千葉 美智雄 氏

### 3.3.1. 地域と協働した取組実績

#### (1) 岩ヶ崎高等学校

##### ① 令和4年7月7日 第1回岩ヶ崎高等学校委員会

協議 (1) 設置要項及び委員会組織について

(2) みやぎハイスクールネットワーク構築事業について

(3) 本校の「総合的な探究の時間」について

(4) 人材バンク活用について

(5) その他

3年総合的な探究の時間の個人研究発表に対して、学校コンソーシアム役員からの指導・助言。

##### ② 令和4年7月21日

3年総合的な探究の時間の個人研究発表に対して、学校コンソーシアム役員からの指導・助言。

##### ③ 令和4年9月16日

宮城学院女子大学現代ビジネス学部 教授 宮原 育子 先生 (MDC C に参画) を講師に、講演「探究型学習を進めるための3つのヒント」を実施。(図12)



図12 宮城学院女子大学現代ビジネス学部 教授 宮原 育子 先生の講演

##### ④ 令和4年12月23日

探究力養成講座を実施し、東北大学大学院教育学研究科教育学部 准教授 松本 大 先生を講師に、講演「思考力、判断力、表現力を養う探究型学習のすすめ」を実施。(図13)



図13 東北大学大学院教育学研究科教育学部 准教授 松本 大 先生の講演

⑤ 令和5年2月15日 第2回岩ヶ崎高等学校委員会

協議 (1) 今年度「総合的な探究の時間」の取組状況

① 1学年の取組

② 2学年の取組

③ 3学年の取組

2年総合的な探究の時間の個人中間研究発表に対して、学校コンソーシアム役員からの指導・助言。

⑥ 令和5年2月22日

2年総合的な探究の時間の個人中間研究発表に対して、学校コンソーシアム役員からの指導・助言。

(2) 中新田高等学校

① 令和4年6月29日 第1回学校運営協議会

報告 (1) 令和4年度学校運営方針及びスクール・ポリシーについて

(2) 令和4年度における取組状況について (現状報告)

(3) 令和5年度全国募集に向けた準備状況について

協議 (1) 学校運営協議会の各部会の活動について「ワークショップ形式による熟議」

(2) 先進校視察について

② 8月30日 第1回部会

協議 (1) 学校設定科目「地域創造学」の実現に向けて

(2) 「全国募集」に向けて

(3) その他

⑤ 11月22日 第2回学校運営協議会

報告 (1) 視察報告 ・山形県立小国高等学校 ・岩手県立大槌高等学校

(2) 令和5年度高校入試の全国募集に向けた準備状況

協議 令和4年度学校目標に対する中間評価について

⑥ 令和5年2月24日 第3回学校運営協議会

協議 (1) 学校評価に係る確認・検討

(2) 次年度に向けた準備状況および次年度計画

・全国募集 ・探究活動及び地域創造学

(3) 令和5年度中新田高等学校の学校運営方針について

(3) 柴田農林高等学校川崎校

① 令和4年6月21日 第1回地域と川崎校の連携「実務者連絡会」

(兼) みやぎハイスクールネットワーク「コンソーシアム会議」

議題 (1) 地域と川崎校の連携「実務者連絡会」の趣旨確認

県教委指定コンソーシアム会議の確認【高校教育課】

(2) 令和4年度連携計画について

・資料説明

・令和4年度行事予定等の概要説明

(3) 令和4年度「総合的な探究の時間(カワサキクエスト)」の概要説明

・昨年度の取組紹介(動画)

② 令和5年1月25日 第2回地域と川崎校の連携「実務者連絡会」

(兼) みやぎハイスクールネットワーク「コンソーシアム会議」

- 議題（１）地域と川崎校の連携「実務者連絡会」の趣旨確認  
県教委指定コンソーシアム会議について（挨拶）【高校教育課】
- （２）令和４年度連携実施報告及び令和５年度連携計画について
- ・資料説明
  - ・令和４年度活動実績の様子説明
- （３）令和４年度「総合的な探究の時間（カワサキクエスト）」の成果報告
- ・今年度の取組紹介（動画）

### 3.4. 取組内容

- （１） 岩ヶ崎高等学校の地域との協働による探究活動に関する取組

イ 地域と協働した取組（総合的な探究の時間）

各学年「総合的な探究の時間」を中心に探究的な学びを実施してきた。また、９月１６日には１年生全員に宮城学院女子大学教授宮原育子先生の講義、１２月２４日（金）には１、２年生全員に東北大学大学院教育研究科准教授松本大先生の講義、他松本ゼミ３名の事例発表など、大学における研究手法を学び、科学的な手法で自分の問いに対しどのように研究の資料を集めて、どのように自分の考えをまとめ、発表するかを学んだ。（図１２・１３）



図 1 2 3年総合的な探究の時間の個人探究最終報告会の様子



図 1 5 2年総合的な探究の時間の個人探究最終報告会の様子

(2) 中新田高等学校の地域との協働による探究活動に関する取組

イ 地域と協働した取組（総合的な探究の時間）

中新田高等学校では、1学年の総合的な探究の時間において「加美町研究」と題し、探究的な学びを行っている。地域の現状や地域が抱える課題の理解を深め、その分析や解決に向けた方策について学びを深めることを目標としている。活動の内容は、グループ学習を中心とし、文献等による資料の収集、フィールドワークによる情報収集、解決案の検討、まとめ、発表である。これらの活動を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を養うことができた。(図14・15)



図14 加美町研究 最終発表会の様子及び成果物

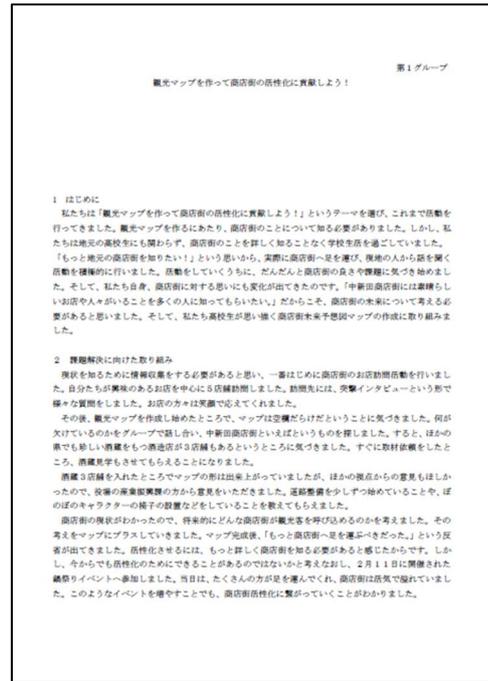
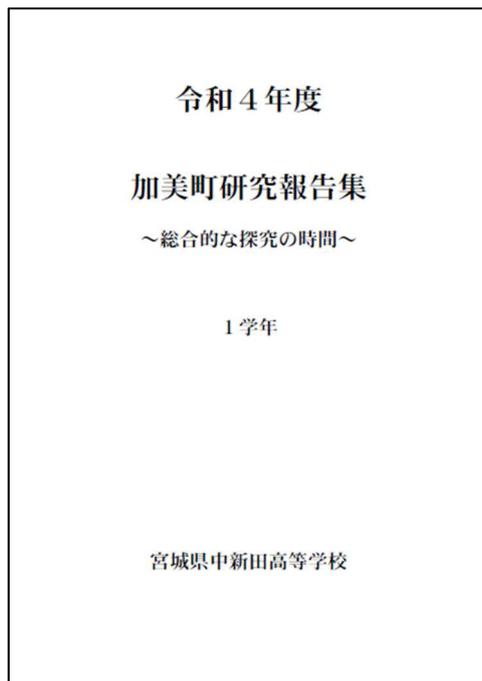


図15 令和4年度加美町研究報告集

ロ 地域と協働した取組（総合的な探究の時間以外のもの）

月 日	内 容	関係団体
4年 7月24日	第19回加美町カップ ドラゴンカヌー大会 カヌー部員による大会運営補助	加美町生涯学習課
10月 7日	加美町 SEA TO SUMMIT 生徒会役員による大会運営補助	加美町産業振興課
10月30日	加美町秋まつり 吹奏楽部によるステージ演奏・美術陶芸部の作品展示・生徒会役員による文化祭制作作品の展示	加美町産業振興課
5年 2月11日	うめえがすと鍋まつり in 加美 1学年総合的な探究の時間「加美町研究」で地域の祭りや商店街について探究した生徒たちが、オリジナル鍋を販売   	加美商工会
4年10月 4日 ～ 5年 2月 9日	KAMI Creative Academy（クリエイティブコース） デジタル人材育成を目指したデジタル公営塾 KCA における「校歌のミュージックビデオ」作成プログラムに有志生徒が参加 10. 4 オープンイベント ライブドローイング実演 10.17 モノづくりの現場のリアルを訊く 11.15 校歌アレンジ&ミュージックビデオ制作プロジェクト① アレンジの方向性を決める 12. 5 校歌アレンジ&ミュージックビデオ制作プロジ	KAMI Creative Academy

図16 加美町研究の成果物「オリジナル鍋」販売

ェクト②

イメージキャラクターを決める

1. 11 校歌アレンジ&ミュージックビデオ制作プロジ

ェクト③

アレンジ校歌のレコーディング体験

1. 12 校歌アレンジ&ミュージックビデオ制作プロジ

ェクト④

ミュージックビデオのイメージを決める

2. 8 校歌アレンジ&ミュージックビデオ制作プロジ

ェクト⑤

ミュージックビデオの発表

動画編集ソフトを触ってみる

2. 9 校歌アレンジ&ミュージックビデオ制作プロジ

ェクト⑥

中新田高校にたくさんの生徒が来てもらうた  
めには (KCA 総まとめ)





図 1 7 KAMI Creative Academy での活動の様子

(3) 柴田農林高等学校川崎校の地域との協働による探究活動に関する取組

イ 地域と協働した取組（総合的な探究の時間）

1年生の総合的な探究の時間では、チームでものづくりに取り組むプロジェクト型学習「カワサキクエスト season2」に取り組み、YouTube を活用した町おこしに取り組んだ。活動目標は「高校生 YouTuber になって川崎町に元気と笑顔を届ける」である。生徒たちは3つのチームに分かれて、町内で魅力的な取組をしている大人にインタビューを行い、同時に、その方が取り組んでいる仕事の一部を体験した。

それらを①インタビュー動画と、②チャレンジ（やってみた）動画にまとめてYouTube とホームページに公開するとともに、その仕事に関連した③ポスター広告を作成した。発表会では、動画に登場する方を始めとした地域の方々、保護者、講師の皆さんを招待して、完成した動画とポスター広告を披露した。

(イ) 2023年2月2日 カワサキクエスト **魁** 作品完成発表会

川崎町長はじめ役場の方、取材に協力していただいた方、講師方、保護者の皆様に招いて作品完成発表会を行った。司会などの運営、発表はすべて生徒が行った。(図18・19・20)



図 1 8 カワサキクエスト作品完成発表会の様子



図 1 9 カワサキクエストで作成したポスター



図 2 0 カワサキクエストで作成したインタビュー動画とチャレンジ動画

カワサキクエスト・ホームページ

カワサキクエスト公式 YouTube チャンネル



<https://kawasaki-quest.net>



<https://www.youtube.com/channel/UC91FaEeV0erZ2x7SF9Xjz3A>

ロ 地域と協働した取組（総合的な探究の時間以外のもの）

月 日	内 容	関係団体
4年 5月19日	第1回防災訓練	岩沼高等学園川崎キャンパス
6月10日	1年：岩沼千年希望の丘植樹活動 	川崎第二小学校3・4年生、学務課、鎮守の森プロジェクト

図 2 1 岩沼千年希望の丘植樹活動の様子

6月22日	第1回全校清掃活動（町内＋校内）	川崎町役場
6月24日～ 10月23日	2年選択授業スポーツⅠ：ダンス指導 10.23 ダンス成果発表 	地域おこし協力隊 （SPRING）ダンス講師
	図22 ダンス成果発表の様子	
7月6日	1年：ボランティア清掃活動 	特別養護老人ホーム釜房 みどりの園
	図23 ボランティア清掃活動の様子	
8月7日	1・2年ボランティア部：川崎茶摘み体験	川崎町学校サポートネットワーク
8月18日	全職員：防災タイムライン研修会（川崎校会場）	青根地区住民、国土交通 省東北地方整備局、総務 課、岩沼高等学園川崎キ ャンパス担当
8月19日	2・3年ボランティア部：川崎BG塾参加（ジュニアリーダー 一等共同）  	生涯学習課
	図24 川崎BG塾の様子	
8月28日	生徒希望者8名：ボランティア・サマーフェスタ（24時間 テレビ募金活動）	社会福祉協議会
9月5日 ～7日	川崎町協力2年インターンシップ	川崎町役場、各種民間企 業

	 <p>図25 2年インターンシップの様子</p>	
10月18日	1年：植樹活動用どんぐり拾い（青根演習林会場） 川崎町スクールバス利用	川崎第二小学校1・2年生、学務課、鎮守の森プロジェクト
10月26日	全校生徒：ディサービス和太鼓演奏披露・ヨサコイ演舞披露	社会福祉協議会
10月27日	生徒会：宮城川崎インターチェンジ環境美化活動	NEXCO 東日本
11月15日	第2回防災訓練（炊き出し訓練）	福祉課、社会福祉協議会、岩沼高等学園川崎キャンパス
	 <p>図25 第2回防災訓練の様子</p>	
11月28日	第2回全校清掃（町内+校内）	川崎町役場
	 <p>図26 第2回全校清掃の様子</p>	
5年 1月25日	第2回コンソーシアム会議（実施報告及び次年度計画）	実務者連絡会
1月28日	参加者13名：スノーバスターズ（雪かきボランティア）	社会福祉協議会
	 <p>図27 スノーバスターズの様子</p>	

3月17日	生徒希望者22名：ファッションドリームの郷（衣料譲渡会ボランティア）	社会福祉協議会、社会福祉法人鶴寿会、川崎町ボランティア友の会、岩沼高等学園川崎キャンパス
通年①	ボランティア部：デイサービスボランティア（月2回）	社会福祉協議会
通年②	ボランティア部：絵本の広場ボランティア（月2回） 	絵本の広場
通年③	川崎茶育成（川崎校敷地内） 	川崎町学校サポートネットワーク

図28 絵本の広場ボランティアの様子

図29 川崎茶育成の様子

### 3.5. 考察

遠隔授業の実施及び学校コンソーシアムの運営等を円滑に推進ことができるように、管理機関が中心となり運営体制の整備を行った。以下、主な成果及び課題について示す。（成果：○ 課題：■）

- 配信校、受信校、本事業全体について連絡調整を行う「みやぎDUAL-COREハイスクールネットワークコンソーシアム」（以下、MDCCという。）を組織し、学校間の連絡調整を円滑に進めることができた。

#### ※構成機関

- ・行政機関 宮城県教育庁高校教育課
- ・高等教育機関 東北学院大学、宮城大学
- ・授業配信校 宮城野高等学校、田尻さくら高等学校
- ・探究的な学びのための学校コンソーシアム  
みやぎハイスクールネットワーク構築事業岩ヶ崎高等学校委員会  
宮城県中新田高等学校運営協議会  
地域と川崎校の連携「実務者連絡会」

○ 教育課程外での学校コンソーシアムと協働した取組が充実したことで、教育課程内で学んだことを活かし、実際の社会でも活用できる成果物を作成することなどができた。

■ MDC Cは、本事業の意思決定の場でもあるため、協議が中心となることが多くあったため、より各学校コンソーシアムの成果及び課題を共有、検討する場にするための検討が必要である。

### 3.5.1. 目標設定シートに対応した成果と課題

#### (1) 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		55%	60%	65%
実績値	52.8%	54.3%	62.5%	
把握のための測定方法及び指標	本県で毎年7月に実施する学力状況調査の質問項目「授業が分かる」生徒の割合（受信校の1、2年生の生徒対象）			

○ 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況については、本県で毎年7月に実施する学力状況調査の質問項目「授業が分かる」生徒の割合を指標とした。質問項目「授業が分かる」生徒の割合は、目標値である60%よりも2.5ポイント高い、62.5%となった。授業において探究的な学びを実践している傾向が高いほど、質問項目「授業が分かる」と回答する傾向も高い。このことから、学校コンソーシアムと協働した総合的な探究の時間などで得られた知見を基に、各教科等での実践につながっているものと思われる。

○ また、教員向けの探究活動研修会を3回実施し、探究の指導について情報交換や、生徒のプレゼンテーションに対して実際に行ったフィードバックへの相互評価を行うことで、探究活動に係る指導力の向上が図ることができた。特に、県内のSSH校や「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」指定校などとの横のつながりもでき、探究的な学びに対する情報交換の場とすることもできた。

#### (2) 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数（総合的な探究の時間を含む。）

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		2	2	4
実績値	2	2	3	

（参考）上記のうち、学校設定科目の数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		0	0	2
実績値	0	0	0	

○ 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数については、目標値である2科目よりも1科目多い、3科目となった。令和5年度については、中新田高等学校では学校設定科目「地域創造学」が開講されることから、学校コンソーシアムと協働した探究的な学びの広がりが期待される。

#### (3) 地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績		3	3	
見込み		3	3	3

- 本県においては、岩ヶ崎高等学校、中新田高等学校、柴田農林高等学校川崎校のいずれにおいても、令和3年度中に地元自治体等の関係機関と協働した学校コンソーシアムを構築できた。
- 3校ともに、学校コンソーシアムに係る設置規約等を設け、年2回程度の会議を開き、学校と地元自治体等の関係機関とが協働して取り組むことができる教育活動等について、活発な意見交換がなされている。

(4) 活動指標②：コンソーシアム構成機関に出前授業の回数と地域等で実施するコンソーシアム構成機関が実施する諸行事・諸活動へ学校が関わる回数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	0	2	62	
見込み		2	8	70
活動指標の考え方	地域と協働した地域探究活動を推進する際の、地域と学校の関わりについての指標とする。			

- コンソーシアム構成機関に出前授業の回数と地域等で実施するコンソーシアム構成機関が実施する諸行事・諸活動へ学校が関わる回数については、見込みである8回よりも54回多い、62回となった。新型コロナウイルス感染症の影響も徐々に少なくなり、各受信校において学校コンソーシアムと協働した教育活動の実績数が飛躍的に増加したものと考えられる。
- 教育課程内での学校コンソーシアムと協働した取組としては、例えば柴田農林高等学校川崎校では、総合的な探究の時間での取組に加え、保健体育科や特別活動などでも取り組むことができ、生徒の資質・能力の向上に資するものとなった。
- 実施回数が大幅に増加したものの、総合的な探究の時間や特別活動での取組が主となっている。これら以外の多様な教科・科目においても学校コンソーシアムと協働し、より質の高い教育活動の実施及び「社会に開かれた教育課程」の実現を検討する必要がある。このためには、学校コンソーシアムとの連携を密にし、学校の教育目標やスクールポリシーを共有し、学校コンソーシアムとして何ができるのかを、より明確にして行く必要がある。
- 受信校は小規模校であるため、特に教育課程外での学校コンソーシアムと協働した取組に対して、持続的に関わるすることができるモデル構築の検討が必要であることがわかった。教員が部活動などへの指導に当たるための時間の確保など、学校側の人的配置や、教員が引率することなく教育課程外で学校コンソーシアムと協働した取組の実施の可否について、検討を続ける必要がある。

(5) 成果目標①：受信校の入学定員の充足率を70%にする。

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		65%	68%	70%
実績値	64.6%	48.9%	59.6%	
目標設定の考え方	地域の中학생から支持される高等学校づくりが定員の充足率向上につながるを考え、ネットワークを活用した受信校の教育課程魅力化の指標とする。			

- 受信校の入学定員の充足率については、目標値である68%よりも8.4ポイント低い、59.6%となった。ただし、岩ヶ崎高等学校での1学級減の影響もあり、令和3年度よりも10.7ポイント高くなった。

- 遠隔授業を活用し小規模校単独では実施できない習熟度クラスの編成や、学校コンソーシアムと協働した地域での探究学習の成果を様々なメディアやマスコミを活用して発信してきた。しかし、受験生に対して特に訴求力のある取組であったか、検証する必要がある。

(6) 成果目標②：卒業後、高校所在地等又は宮城県の公務員になった人数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		7	9	11
実績値	5	7	4	
目標設定の考え方	遠隔授業や地域の探究活動を含め、地域社会に貢献しようとする人材の育成の指標とする。			

- 卒業後、高校所在地等又は宮城県の公務員になった人数については、目標値である9人よりも5人少ない、4人となった。
- 学校コンソーシアムと協働した諸活動は大幅に増加したが、遠隔授業や地域の探究活動を含め、地域社会に貢献しようとする進路意識を含めた醸成については、検討が必要である。

## 4. まとめ

(1) 遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組について

イ 遠隔授業を行う体制

令和4年度の取組では、配信校及び受信校ともに、一つ一つ課題を解決しながら、遠隔授業を実施してきた。特に、校内の支援体制及び定期考査の取扱いについては、試行錯誤を経て2.5.で示した成果を得ることができた。中でも、校内の支援体制については、図10で示した柴田農林高等学校川崎校での「遠隔授業に係る連絡票」が有効に機能したと考えられる。

今後は、遠隔教育研修会やMDC Cなどの場で、各校の実施状況等の共有をより密にし、MDC Cの場以外でもインタラクティブに共有する場の構築をさらに進めたい。具体的には、校務系PC上でGoogle Classroomが稼働するようになったことから、遠隔授業担当者間で情報共有ができるクラスを作成し、各校での実践及びその成果をアップロードしていきたい。

ロ 授業づくり・生徒の見取り・学習評価

前述したとおり、本県では令和4年度末までに生徒1人1台端末環境が整備される。遠隔授業においてICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的、対話的で深い学びを実現し、生徒の資質・能力の育成を図る必要がある。しかし、令和4年度にあっては、生徒1人1台端末環境を活用した取組は限られたものとなった。

ただし、その中でもクラウドサービスを活用し、課題等を提出させて対面での授業と同様に成果物を評価することができたことや、提出された課題に対して評価コメントを付し、適切なフィードバックをするなどして個別への対応を図ることができた取組も見られた。

令和5年度は、生徒1人1台端末環境の活用を前提とし、クラウド上での課題等の提出に加え、課題に対してのフィードバック、デジタルポートフォリオの活用などを進めていきたい。適切に生徒を見取る学習評価方法に対する知見を得るとともに、得られた形成的評価を指導に生かし、調査研究テーマに迫りたい。

## (2) コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組について

### イ 学校コンソーシアムの実施及び運営体制

受信校3校においては、令和3年度に学校コンソーシアムを構築し、それぞれ多様な組織・人材が学校コンソーシアムに参画し、様々な教育活動が実施された。各校においては、年2回以上の学校コンソーシアムに係る会議が開かれ、協働した教育活動の在り方や方向性が活発に議論された。本事業終了後も、学校コンソーシアムを持続可能な体制とするための学校組織や人員配置の在り方については今後も議論が必要であるが、地域との協働性が高い既存の組織の在り方を検討し、再度価値付けることで、目標に合致する取組ができることを明らかにすることができた。これは、地域との接点の多い母体となる組織や地域人材を活用することで、より地域探究活動や地域との協働活動への支援が受けやすく、日常的な協力を得ることができるためだと考えられる。

また、親コンソーシアムであるMDC Cを設置したことで、管理機関である県教育委員会の役割や支援の方向性が明確となり、各学校コンソーシアムで得られた知見の共有及び高等教育機関からの指導・助言をいただき、取組に対する方向性を明らかにする場とすることができた。しかし、本事業の意思決定の場でもあるため、協議が中心となり、各学校コンソーシアムの成果及び課題を共有・検討するためにあまり時間を割けないといった課題もある。

令和5年度においては、1.3. で述べたとおり、本事業の知見を生かし、地域進学重点校改革推進事業にて県内3地区で学校コンソーシアム構築が予定されている。学校コンソーシアムの実施及び運営体制について、さらに知見を蓄積し、モデル化できるようにしていきたい。

### ロ 学校コンソーシアムを通じた教育課程内外の取組

3.5.1(4) 活動指標②で示したとおり、学校コンソーシアムと協働した教育課程内外の取組が大幅に増加した。新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に少なくなったこともあるが、各受信校において学校コンソーシアムとの協働の在り方が、概ね浸透してきたことを示すものと考えられる。岩ヶ崎高等学校では総合的な探究の時間での指導・助言や「人材バンク」の設立、中新田高等学校では学校設定科目「地域創造学」（令和5年度より実施）の開発や加美町がデジタル人材の育成を目指す目的とする Kami Creative Academy との協働、柴田農林高等学校川崎校ではプロジェクト型学習「カワサキクエスト season2」の実施や2年選択授業スポーツ I でのダンス指導、川崎茶育成など、多種多様な教育活動が多く地域人材に支えられて実践された。

このような取組を継続させるためには、教員の配置に関わらず、どの小規模校においても、持続可能なものするための体制づくりが必要となる。そのため令和5年度においては、特に学校コンソーシアムを通じた地域探究活動への関わり方について、校内で適切に組織化し、多くの教員が関わる体制づくりの在り方の検討をさらに進めたい。

## (3) 事業終了後の展望について

1.3. ハ(イ)及び(ロ)で述べたとおり、本事業で得られた知見を生かし、令和5年度より実施する教育DX推進プロジェクト事業及び地域進学重点校改革推進事業を展開する予定である。それぞれ、主に遠隔授業の実施並びに、学校コンソーシアムの構築及び地域探究活動の推進をする事業である。

本事業も含め、各事業で有効な検証結果を得るためには、各事業間で得られた課題やその解決に資する方略について、相互に共有、フィードバックできる実施体制が必要となる。本事業においては、MDC Cを中心に他2事業で得られたことを発信、共有していきたい。

本県は1.1.(1)でも触れたとおり、少子化の傾向は今後さらに加速されると予想されており、仙台市

以外の地区にある高等学校の在り方について、議論されているところである。遠隔教育をはじめとした学校間連携等を円滑に進め、生徒や地域の多様なニーズに応えることができるよう、検討を進めていきたい。

## 5. 次年度に向けた計画概要

### 5.1. 明らかにしたい事項

#### (1) 遠隔授業における「協働的な学び」の実践の在り方について

令和4年度は配信校2校から受信校5校へ、遠隔授業を実施した。年度当初は、導入した遠隔教育システムの挙動が不安定となり、円滑に遠隔授業を実施できないことが散見された。しかし、Google Workspace for Educationの各サービスにて代替し、授業を継続することができた。また、昨年度懸念された遠隔授業を行う際のICT機器操作や学習評価に対する不安については、概ね解消された。実際に授業を担当する教員からも、「紙媒体ではなく、記入したプリントの写真やデータをGoogle Classroomを用いて提出させることで、対面での授業と同様に成果物を評価することができた。」などの意見が出された。令和5年度は、遠隔授業における「協働的な学び」の実践の在り方について、検証を進める必要がある。

#### (2) コンソーシアムと協働した地域探究活動について

令和4年度は新型コロナウイルス感染症による影響もやや小さくなり、各受信校にて学校コンソーシアムと協働した教育活動が多く実践された。これは協議を重ねてきたことで、学校コンソーシアムの構成員が、その設置の目的を明確化し、共有したことによるものと考えられる。また、総合的な探究の時間等での生徒発表に対する学校コンソーシアムの構成員からの指導・助言についても、生徒の資質・能力の育成につながるものであった。

令和5年度は、異動により学校コンソーシアム構成員や学校の教職員が入れ替わったとしても、効果的で持続可能な組織として維持していくための知見をさらに得るとともに、学校コンソーシアムと学校の協働を支援する管理機関の関わり方について、検証を進める必要がある。

### 5.2. 重点的に取り組む事項

#### (1) 遠隔授業における「協働的な学び」の実践の在り方について

本県では、令和4年度末に生徒1人1台環境が整備される予定である。このため、生徒1人1台の端末を効果的に活用し、遠隔授業においても「協働的な学び」を実現するモデル構築を進める必要がある。また、「協働的な学び」の推進に資する学習課題を設定することで、「個別最適な学び」についても充実することが考えられる。遠隔授業で両者の学びを一体的に充実させるため、適時研修会等を実施し、有効な手立てについて検証していきたい。

#### (2) コンソーシアムと協働した地域探究活動について

本県では、1.3. ロードマップでも述べたとおり、令和5年度より地域進学重点校改革推進事業が実施される。この事業では、県内3地区にコンソーシアムを構築し、協働して地域探究活動を展開する予定である。その際、本事業で得られた学校コンソーシアムの構築に係る知見、持続可能な組織として維持していくための知見、また、学校と協働し関わっていく知見が大いに役立つと考えられる。これらの知見を活用し、更に深めるとともに、管理機関の関わり方について、検証を進めたい。

### 5.3. 実施体制

#### (1) ネットワーク構成校

令和4年度は、配信校2校、受信校が3校でネットワークを構成し、遠隔授業を実施した。令和5年度は配信校を1校増やすとともに、配信科目を9科目に増やして実施する。この内、地域探究に関わる地理総合や情報活用能力育成の中核である情報Ⅰを、新たに配信科目に加える予定である。このため、令和5年度より、新たに遠隔授業を担当する教員も複数いることから、担当者間の情報共有が簡便にできるよう、ネットワークの構築を検討していきたい。

#### (2) みやぎDUAL-COREハイスクールネットワークコンソーシアム

構成員に1校を増やし、MDC Cを運営していく。構成員間の連携及び情報共有をより密にし、5.2. で上げた重点的に取り組む事項に対処していきたい。

(名称)

第1条 本組織は、みやぎDUAL-COREハイスクールネットワークコンソーシアム（以下「MDCC」という。）と称する。

(目的)

第2条 本組織は、地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業（COREハイスクール・ネットワーク構想）委託要項（令和3年1月5日文部科学省初等中等教育局長決定）に基づき、宮城県教育委員会が文部科学省から委託を受けて実施する「みやぎハイスクールネットワーク構築事業」において、次の目的の達成を目指すものとする。

- (1) 県内高等学校における遠隔授業の在り方の実証研究及び地域課題の解決等の探究的な学びを柱とするカリキュラム開発を支援することにより、地域に貢献する人材を育成する。
- (2) 前号の実現のために、未来を担う高校生に必要とされる「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力」の資質・能力を育成するための探究的な学びを推進する。
- (3) 本組織に関わる各高等学校が、本県のオンラインによる遠隔授業のノウハウの蓄積や地域と協働した探究的な学びの浸透に寄与するとともに、本県の高校教育全体の活性化を図る。

(構成機関等)

第3条 MDCCは、別表に掲げる機関をもって構成する。

(役員)

第4条 MDCCには、次の者を役員として置く。

- (1) 各高等教育機関から選出された教職員1名
  - (2) 各授業配信校の副校長又は教頭1名
  - (3) 各探究的な学びのための学校コンソーシアム内の授業受信校の副校長又は教頭1名
  - (4) みやぎハイスクールネットワーク構築事業のCIO（最高情報責任者）
  - (5) 宮城県教育庁高校教育課長及び宮城県教育庁高校教育課教育指導第一班長
- 2 MDCCには会長及び副会長を置き、役員の間選によりこれを定める。
- 3 会長は、コンソーシアムを代表し、会務を総括する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

(事業活動)

第5条 第3条の構成機関は、次の事業活動を行う。

- (1) 行政機関は、本組織を総理し、及び事業の成果の発信を行う。
- (2) 高等教育機関は、みやぎハイスクールネットワーク構築事業の指導・助言及び支援を行う。
- (3) 授業配信校は、授業受信校に対して遠隔授業の配信を行う。
- (4) 探究的な学びのための学校コンソーシアムは、各高等学校の総合的な探究の時間等における探究的な学びを支援する。

(会議)

第6条 みやぎハイスクールネットワーク構築事業を連携・協働して実施するにあたり、連絡・調整するための会議を開催する。

2 会議は、MDC C会長が開催し、招集する。

3 会議には、MDC Cの役員が出席する。

4 会議には、座長を置き、座長は会議の進行を行う。

5 役員が会議に出席した場合は、予算の定めるところにより、宮城県教育委員会講師謝金等支給基準表（平成24年8月1日改正）、職員等の旅費に関する条例（昭和32年10月10日宮城県条例第30号）及び宮城県教育委員会に属する職員等の旅費及び費用弁償の支給規則（昭和36年9月15日宮城県教育委員会規則第二号）を準用した額により、謝金及び旅費を支給することができる。

(事務局)

第7条 MDC Cの事務処理等のため、宮城県教育庁高校教育課に事務局を置く。

(その他)

第8条 この規約に定めるもののほか、MDC Cの運営に関し必要な事項は、宮城県教育庁高校教育課長が別に定める。

附 則

この規約は、令和3年12月9日から施行する。

附 則

この規約は、令和4年4月1日から施行する。

別表（第5条関係）

構成機関	名 称
行政機関	宮城県教育庁高校教育課
高等教育機関	東北学院大学 宮城学院大学
授業配信校	宮城県宮城野高等学校 宮城県田尻さくら高等学校
探究的な学びのための 学校コンソーシアム	みやぎハイスクールネットワーク構築事業岩ヶ崎高等学校委員会 宮城県中新田高等学校運営協議会 地域と川崎校の連携「実務者連絡会」